

外部有識者による意見書

(c) 研究目的の達成見込み

研究期間が終了するまでの間に研究目的を達成する見込みがあるか。

期待以上の達成が見込まれる

達成が見込まれる

達成が危ぶまれる

達成する見込みはない

(意見等)

世界的なレベルの高い研究成果を挙げており、名城大学本センターの名は国内だけでなく、国際誌、国際会議を通じて世界に知られることになると思われる。地盤系の研究は今後の発展に期待する。

今後の研究計画・方法の妥当性はどうか。

妥当である

問題がある

(問題点) 問題点があると判断した場合、必ずご記入ください。

無理の少ない計画と思われる。

〔総合意見〕

本研究課題の当初の目標に照らし、総合的なご意見をお願い致します。

A + : 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる。

A : 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる。

B : 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である。

C : 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれない。

(意見等) 各事項、今後の課題及びその他の点も含め、総合的なご意見を記入願います。

国際的評価の高い研究者から構成される本センターは、新しい実験施設を効果的に使って、質の高い研究成果を挙げ、それを内外に発信している。国内はもとより、国際的にも認められる成果を出している。これは地方に位置する大学にあって、驚くべきことであり、高く評価できるものである。メンバーの努力と熱意の賜物と思われる。

このようなセンターが発足して5年で廃止されることは社会的損失であり、現時点から、将来計画を考えておくことをお願いしたい。

名城大学 高度制震実験・解析研究センター (ARCSEC)

研究進捗状況に対する意見書

意見書作成者	所属 京都大学大学院工学研究科建築学専攻	氏名 上谷 宏二
--------	----------------------	----------

該当するものを一つ選び， に印()を付してください。
(意見等)欄には，出来る限り意見等を記入してくださいようお願い致します。

(a) 研究の進展状況

当初の研究目的に沿って，着実に研究が進展しているか。

期待以上に進展している

着実に進展している

やや遅れている

非常に遅れている

(意見等)

現在5年間の研究期間のうち最初の2年を経過した時点であるが、以下の理由により研究の進捗状況は期待以上であると判断される。

・本研究課題の中で新たに導入された4設備の全てに対し順調に調整・整備が進行し、研究に活用できる状況にある。

・本研究では研究展開の基礎をなす理論の大半が複雑な非線形現象に関係するものであることから、実験との精密な比較による実証が研究の成否を左右するポイントとなっている。いずれの課題についても高度な実験や数値解析を実施することにより理論や方法の妥当性が実証されており、後半の研究展開に向けての条件が整っている。

(b) これまでの研究成果

当初の研究目的に照らして，現時点で期待された成果をあげているか。

期待以上の成果をあげている

期待された成果をあげつつある

期待された成果をあげているとは

期待された成果をあげる見込みがな

いい難い

い

(意見等)

現時点までに達成されている研究成果を見ると、学術的観点と実用的観点のいずれについても非常に高いレベルの内容である。本研究組織の特徴として、それぞれの研究分野をリードする優秀な研究者が構成メンバーの中核をなしていることである。これらの研究メンバーはこれまでに蓄積してきた実績を背景に今回のプロジェクトにおける問題点を絞り込み、後半の課題である各種構造物の耐震性を向上させるための新しい技術や設計法の達成に向けて期待以上の成果をあげている。

研究内容・研究成果の積極的な公表，普及に努めているか。

努めている

不十分である

(意見等)

学術論文の発表、講演会の開催が着実に行われており、前半2年経過時点としては十分であろう。後半に予定されている新しい技術や設計法を開発する段階においては、論文発表や報告討論会の開催に加え、研究成果を実用に結びつけることを射程においた産官との連携などの活動を展開することが期待される。

(c) 研究目的の達成見込み

研究期間が終了するまでの間に研究目的を達成する見込みがあるか。

期待以上の達成が見込まれる

達成が見込まれる

達成が危ぶまれる

達成する見込みはない

(意見等)

上記(a)研究の進展状況、(b)これまでの研究成果で述べたように、プロジェクトの前半については高いレベルの研究成果を着実に達成してきたといえる。巨大地震が近代都市を直撃する可能性が高い我国において、本プロジェクトが掲げる課題に対する社会からの要請は非常に大きい。前半の成果に基づいた後半の研究が大きな成果に結びつくように積極的な研究活動の展開が期待されるところである。

今後の研究計画・方法の妥当性はどうか。

妥当である

問題がある

(問題点) 問題点があると判断した場合、必ずご記入ください。

「平成 19・20 年度研究報告書」の中に示された研究計画・方法に関する記述から判断する限り、方向性そのものは妥当であると考えられる。しかし、具体的な達成目標という点において十分明確なイメージが伝わってこない課題もある。耐震性向上の技術開発といっても対象や手法は多岐にわたる。実用に結びつく道筋がある程度明確なレベルの成果を目指すのであれば、後半の研究の焦点を相当明確に絞り込む必要があると思われる。

〔総合意見〕

本研究課題の当初の目標に照らし、総合的なご意見をお願い致します。

A + : 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる。

A : 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる。

B : 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である。

C : 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれない。

(意見等) 各事項、今後の課題及びその他の点も含め、総合的なご意見を記入願います。

本研究課題は学術的にも実用的にも意義の高い内容である。前半の研究は着実に実施され、後半の展開が大いに期待されるところである。各課題項目が掲げている対象はいずれも強い非線形現象であり、実大実験の実施が不可能なものや、相似則の実現が困難な現象が大半である。従って予測/評価は数値解析によらざるを得ないのであるが、解析手法の信頼性を実証するための実験装置を備えた総合的評価システムを実現することが本プロジェクトの第1の目標であると理解する。この意味において第1の目標はある程度達成されたといえる。第2の目標はこの特徴ある評価システムの独自性と特徴をフルに活用し、個別の対象構造物に対して耐震性向上のための補強法や設計法を提案することである。

(c) 研究目的の達成見込み

研究期間が終了するまでの間に研究目的を達成する見込みがあるか。

期待以上の達成が見込まれる

達成が見込まれる

達成が危ぶまれる

達成する見込みはない

(意見等)

実験に関する環境整備はすでに完了しつつあり、今後数値解析に関する研究が期待通りに進展すれば、残り3年の研究期間に、目的とする研究成果を挙げることは十分可能であると考えられる。

今後の研究計画・方法の妥当性はどうか。

妥当である

問題がある

(問題点) 問題点があると判断した場合、必ずご記入ください。

[総合評価]

本研究課題の当初の目標に照らし、総合的なご意見をお願い致します。

A+ : 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる

A : 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる

B : 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である

C : 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれない。

(意見等) 本研究課題の当初の目標に照らし、総合的なご意見をお願い致します。

設定されている地盤系の研究テーマは時宜を得た重要な研究課題であり、国内外でもまだ研究は十分に進んでいないものである。そのような研究課題に対して、実験設備の導入からスタートして、正面から着実に取り組まれていることを評価したい。現在の進展状況は若干スローペースの傾向はあるものの、残りの研究期間において、当初の目標として設定した研究成果が見込まれるものと期待できる。